

### 検診機関における要精検率について

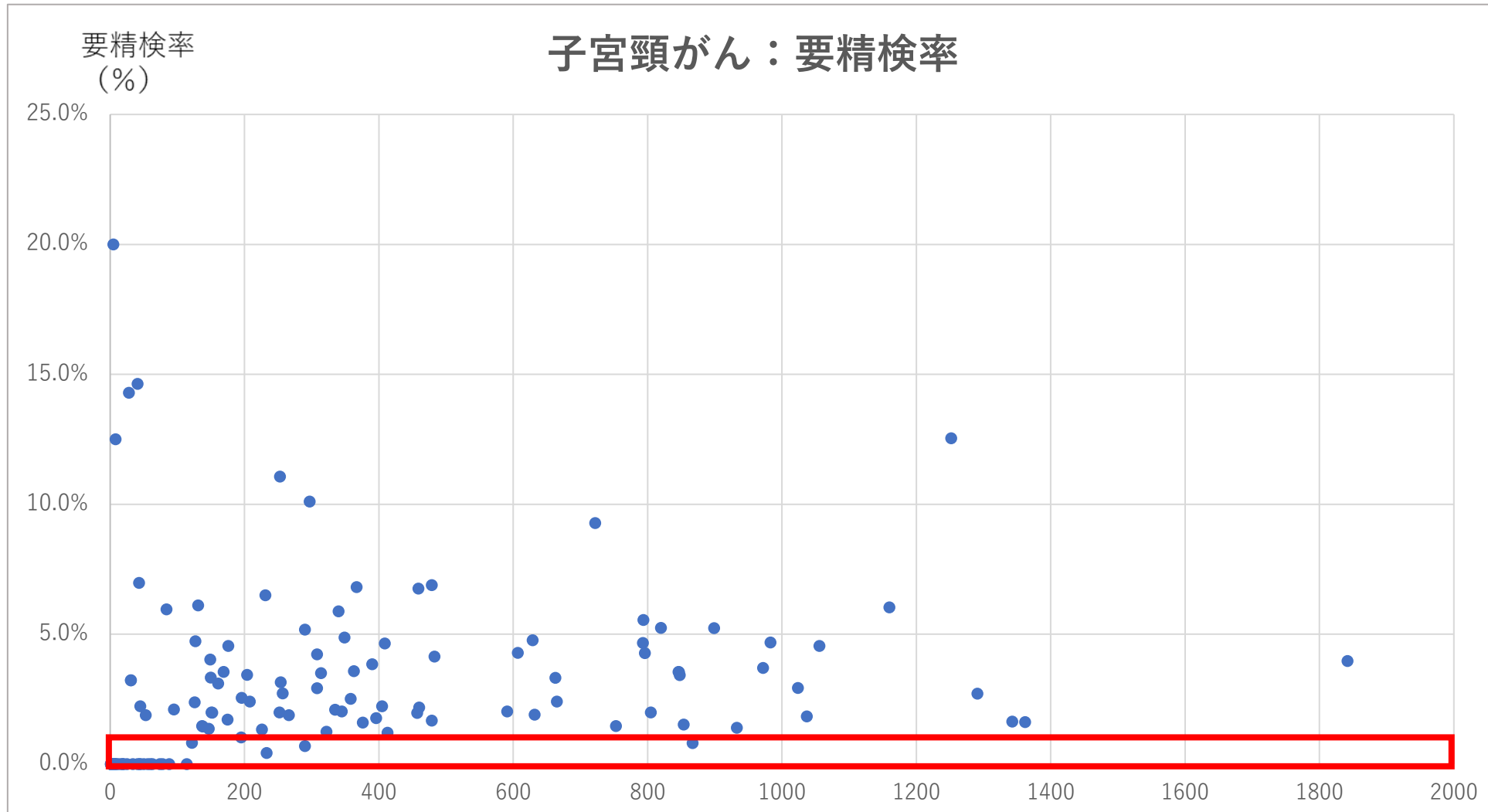
長崎県では、令和3年度（令和元年度実施分）より各市町あて「検診機関毎の精度管理指標」の調査を実施しています。

具体的には、市町が委託している検診機関の精度管理指標値（受診者数、要精検者数、精検受診者数、がん発見数等）をがん種別に報告いただいています。

今回、令和元年度実施分の精度管理指標値を集計しました。

要精検率については、許容値を超える医療機関も複数見られたことから、該当する医療機関に対して、精度管理の状況等を確認しながら、必要時改善におけた働きかけを検討しています。

# 要精検率の分布図（検診医療機関ごと）



	許容値
要精検率	1.4%以下
精検受診率	70%以上
がん発見率	0.23%以上
陽性反応の集中度	2.5%以上

**許容値  
1.4%以下**

要精検率	医療機関数	検診受診者	要精検数	要精検率(%)	精検受診者	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率 (がん発見/検診受診者(%))	陽性反応的中率 (がん発見/率精検受診者(%))
0-3.5	86	23533	454	▽1.93	370	81.50	11	0.05(a)	2.97
3.5-7	33	18662	880	▲4.72	736	▲83.64	19	0.10(b)	2.58
7-	9	2649	297	▲11.21	131	▽44.11	3	▲0.11(c)	2.29

①

②

③

④

P<0.01,  
a vs. b+c

全体の要精検率は3.6%

- ①受診者あたりの要精検数には有意差あり。  
 ②要精検対象あたりの精検受診者数には有意差あり  
 ③3.5%以下と3.5%以上を比較すると、検診者あたりのがん発見数は、有意差あり。(発見がん数が少ないためまとめた)  
 ④精検受診者あたりの発見がん数に、有意差なし。

要精検率の高い医療機関では精検受診率を高める必要がある。  
 要精検率が高い医療機関の検診者には、有症状者が含まれる可能性が高い。  
 要精検率の違いで、陽性反応的中率には違いがない。  
 →要精検者で精検未受診者への受診勧奨が非常に重要。(要精検率7%以上での精検未受診者に3名程度がん患者が含まれている可能性あり)